

医療法人ひまわり会札幌病院の病床機能の変更の概要

1 許可病床数

一般病床 138 床、療養病床 32 床 合計 170 床

2 変更内容等

(1) 変更年月日

令和4年11月1日

(2) 変更内容

病床種別：一般病床 138 床のうち 3 床を療養病床へ転換

病床機能：急性期病床 42 床のうち 2 床を回復期病床、3 床を慢性期病床へ転換

急性期 42 床 → 37 床（一般病床）

回復期 49 床 → 51 床（一般病床）

慢性期 79 床 → 82 床（一般病床 47 床、療養病床 35 床）

(3) 令和4年9月22日付け第1回調整会議（書面開催）での協議事項

令和5年3月15日

医療法人ひまわり会 札幌病院
院長 池田 康一郎

病床機能の転換について

<変更理由>

地域包括ケア病床は在院期間2カ月や在宅復帰率などの運用条件があるため、今般3床を回復期病床及び療養病床に転床します。

<変更内容>

令和5年4月1日から、地域包括ケア病床（急性期病床）を5床減床して回復期病床に2床、療養病床に3床を転床します。

なお、病床を変更した場合、当院の定床170床の内訳は、急性期病床37床（うち地域包括ケア病床7床）、回復期病床51床、障害者病床47床、医療療養型病床35床となります。

<将来像を見据えた計画>

この変更によって、病院の将来像が大きく変更されることはありません。

一般病床135床、療養病床35床で今後も運営していきます。

運営についても従来どおり、救急車の受け入れも含め急性期から慢性期まで幅広い医療を提供し地域医療に貢献していきます。

J A 北海道厚生連倶知安厚生病院の病床機能の変更の概要

1 許可病床数

(1) R4.8.31 まで

一般病床 172 床(うち休床 8 床)、精神病床 60 床、感染症病床 2 床 合計 234 床

(2) R4.9.1 から

一般病床 172 床(うち休床 8 床)、精神病床 40 床、感染症病床 2 床 合計 214 床

2 変更内容等

(1) 変更年月日

令和 6 年予定 (11 月改築整備時)

(2) 変更内容

病床廃止 : 一般病床 172 床のうち 15 床を廃止

病床機能 : 急性期病床 118 床のうち 103 床を回復期病床へ転換

急性期	118 床	→	0 床 (一般病床)
回復期	54 床	→	157 床 (一般病床)

(3) 令和 4 年 11 月 18 日付け第 2 回調整会議 (書面開催) での協議事項

**「病床機能分化・連携促進基盤整備事業費補助金 事業計画書」に係る御意見・疑義等について
(事業者:JA北海道厚生連倶知安厚生病院)**

1 令和5年1月12日付け書面開催(令和4年11月18日付け書面開催に係る御意見等及び回答)

資料番号	御意見・疑義等
資料1 病床機能分化・連携促進基盤整備事業費補助金事業計画書 (事業者:JA北海道厚生連倶知安厚生病院)	【一般社団法人余市医師会 小嶋会長】 <input type="radio"/> 承認しない 急性期病床は必要と思う。
	【小樽市病院局 並木局長】 <input type="radio"/> 保留 回復期病床の充実、後志圏域の構想と合致しており、既に転換については了済みとのことだが、羊蹄山ろく地域の基幹病院の役割を担っている倶知安厚生病院の急性期病床が全て回復期病床に転換されることになると、圏域において急性期を担う病院が小樽地区に偏ることになる。 羊蹄山ろく地域における転換に関する協議結果と、今後、圏域における救急体制等をどのように考えているのかお示しただけないか？ 承認については、それが示された後とさせていただきます。今回は保留とさせていただきます。
	【社会福祉法人北海道社会事業協会余市病院 吉田院長】 <input type="radio"/> 承認しない 地域センター病院に急性期病床が無くなるということは、その役割を果たす意思がないということですか。
<p>《回答(倶知安厚生病院)》</p> <p>今後の羊蹄山麓地区を中心とした受診者の動向を踏まえると、リハビリや在宅復帰支援のニーズがより高まることが予測される為、回復期機能を充実させる必要があると考えており、地域包括ケア病床への転換を図ることとしております。</p> <p>しかしながら、地域包括ケア病棟への転換は急性期患者の診療、二次救急医療機関としての救急医療を妨げるものではなく現行どおり継続していきますので、圏域内の医療機関との連携についてもこれまで通り進めていきたいと考えております。</p> <p>また、羊蹄山麓7カ町村長で構成される医療機能検討協議会^{※1}においても、地域包括ケア病棟変更後も地域センター病院として必要な医療機能を維持しながらその役割を果たしていくことで承諾を得ております。</p> <p>※1 令和2年5月19日開催の倶知安厚生病院医療機能検討協議会で協議された改築整備基本構想のなかで、基本整備目標のひとつに地域医療の充実が掲げられ、「救急医療の充実」、「地域センター病院の役割発揮」が具体的な目標として明示されております。 また、同じく基本整備目標に「災害拠点病院の役割発揮」を掲げており、引き続き災害拠点病院としての役割も担っていきます。</p>	

2 令和5年3月15日付け調整会議(令和5年1月12付け書面開催に係る御意見等)

【一般社団法人余市医師会 小嶋会長】

- 承認する

【小樽市病院局 並木局長】

- 承認する

【社会福祉法人北海道社会事業協会余市病院 吉田院長】

- 承認する

救急の維持、よろしく願いいたします。

【一般社団法人寿都医師会 祁答院会長】

- 承認する

地域包括ケア病棟の本来あるべき機能を目指していること、現在の救急機能を変更する意図ではないことがよく分かりました。今後も連携をよろしくお願い致します。

【社会福祉法人北海道社会事業協会岩内病院 横山院長代理副院長】

- 条件付きで承認する

倶知安厚生病院の急性期病床を削減するという事は、岩内協会病院が地域センター病院としての急性期医療を担わなければならないということとなります。そのため、回復期病床転換による倶知安厚生病院での余剰人員(医師看護師コメディカル)を含め、当院で必要となる医療者の確保を行政や地域で必ず確保していただけるのであれば、当院での急性期医療の充実を条件として承認いたします。

■ 倶知安厚生病院の病床機能変更について

(変更時期)

令和6年11月を予定しております。

(変更内容)

急性期病棟118床のうち15床を廃止し、103床を地域包括ケア病棟に転換いたします。

(変更後の対応)

病床機能は変更となりますが、現在と変わらず引き続き急性期医療を担ってまいります。急性期の患者に対応する為に必要な人員配置を行い、適切な診療ができる体制を維持していくこととします。

また救急医療につきましても、二次救急医療機関として現在と変わらぬ受け入れ態勢を継続してまいります。

今後も地域センター病院として求められる救急・小児・周産期・精神・外国人・訪問等の診療機能を維持していくことが当院の役割であると考えております。